

# しく体験 減災学ふ

## 陸・整備進む「海の見える命の森」

### 津波発生時は避難目標に

堀内千歳、  
1年川元  
【】  
浸水した国  
登ること  
青く輝く志  
ました。  
地区の丘で整  
見える命の  
犠牲者を悼む  
つつ、日頃

は、ほぼ築体験、かまど体験、  
井戸体験といった「減災体  
験伝承プログラム」を楽し  
みながら学べる避難所訓練  
エリア、そして津波発生時  
は避難の目標になるよう、  
地元有志が2016年から  
整備をしています。

丘に至る120段を超え  
る木製の階段や案内板の整  
備、植樹など、多くの作業は

国内外から集まった延べ6  
000人のボランティアの  
手で進められてきました。

現場隊長を務める副実行  
委員長の阿部寛行さん(59)  
は、「この森に多くの人が  
関わることで震災の教訓が  
広く伝わる。同時に楽しみ  
ながら生きるすべを学ん  
で、それぞれの生活の中で  
生かしてほしい」と願いを

話します。阿部さん自身、  
震災後にボランティアとし  
て支援に携わったことが縁  
で仙台市から移り住み、活  
動をけん引しています。

森には「命の木」として  
エドヒガナザクラが多く植  
えられています。樹齢が1  
000年を超えるものもあ  
るサクラを津波の心配のな  
い高台に植えて、津波襲来  
時には避難目標として、世



紀を超えて  
この仕掛け  
山頂には  
えよの千年  
ん」と刻  
おのおのが  
い、ぼろぼ  
とこそが、  
る鉄則だ  
今回、僅  
テの苗木  
だ。災害時